

豊かにかかわり 高め合う 鳩森の子

～シブヤ未来科の実践を通して～

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和5年10月31日（火）5校時

渋谷区立鳩森小学校 5年1組

授業者 富永 大樹

1 単元名 新宿御苑の魅力を発信しよう

2 単元の目標

身近にある新宿御苑に主体的に関わり、探究的な見方・考え方を働かせ、自ら立てた課題に対して、御苑の職員の方、御苑の利用者の方の願いを大切にしながら課題を解決し、第三者へ発信する活動を通して、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 探究的な学習の過程において、「新宿御苑の魅力」について、新宿御苑での調査や新宿御苑の方の願いを基に考えるとともに、発見した魅力を第三者に工夫して発信する中で、探究的な学習のよさに気付く。
- (2) 自分たちの身近にある場所である新宿御苑の「魅力を発信しよう」という問いを見いだし、価値ある課題を自分で立てて、手段を選択して情報を集め、各教科等で学習したことを活用しながら整理・分析して、相手や目的に応じてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自他の願いや思いを尊重しながら自分たちの住む地域に誇りをもち、積極的に渋谷のまちづくりに関わろうとする態度を養う。

3 本単元で育成を目指す資質・能力（評価規準）

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力（評価基準）		
	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力	③学びに向かう力・人間性
地域や学校の特色に応じた課題 新宿御苑の魅力を発信する取組（地域）	【知識】 新宿御苑で行われている取組やそこで働く人の思いや願いを基に、自分たちの地域の魅力について理解している。 【技能】 新宿御苑の魅力について考え、その魅力を第三者に発信することができる。	【課題の設定】 自分たちを取り巻く地域社会に広く目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。 【情報の収集】 多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やICTで蓄積することができる。	【主体性・協働性】 自分と身近な実生活・実社会の問題解決に他者と協働して進んで取り組もうとする。 【自己理解・他者理解】 探究活動を通して、自分自身を理解し、他者の考え等を受け入れ尊重しながら学び合おうとする。

	【探究的な学習のよさ】 自分たちの生活する地域の魅力に気付くことは、新宿御苑の魅力について探究的に学んだことによる成果であると気付く。	【整理・分析】 適切な思考ツール等を選んで情報を整理し、情報と情報がどのような関係にあるか、見出すことができる。 【まとめ・表現】 他教科等で培った表現力等を活用したり、学習の仕方を振り返り他の学習や生活に生かしたりすることができる。	【将来展望・社会参画】 地域との関わりの中で、地域にとって必要なことと自分にできることを検討し、実践に移そうとする。
--	---	--	--

4 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、第1学年の頃から自然の観察、校外学習などで新宿御苑を何度も訪れており、慣れ親しんだ場所となっている。学習への意欲も比較的高く、発表や意見交流なども活発に行っている。一方で伝え合う言葉が幼く、相手に伝わらないことも多い。本単元では、新宿御苑の魅力を考え、発信する活動の中で、多くの友達と関わり、学びを深めながら自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができるように指導をしていきたい。

(2) 教材について

児童が暮らす地域に「新宿御苑」がある。1年～4年までの学習で関わってきた新宿御苑の魅力について改めて考え、実際に見学に出掛けたり、新宿御苑の方の話を聞いたりして、新宿御苑の魅力について自分なりの考えをもてるようにする。考えを互いに共有し、「魅力をより多くの人に知ってもらいたい」「訪れた人たちに自分たちの気付いた魅力をもっと知ってもらいたい」といった思いをもち、それらを発信する方法を考え、新宿御苑の方にフィードバックをもらいながら、より分かりやすく、伝わりやすい発信について探究させたい。

5 主題に迫るための手立て

(1) 新宿御苑との連携【地域との連携】

児童にとって身近な地域教材である新宿御苑を計画的に活用することで、豊かに関わり合うことができるようにする。新宿御苑の見学、ゲストティーチャーとしての関わり、児童の発信をする場所として、単元を通して密接に関わり、児童の学習が深まるようにする。

(2) 整理、分析の手立ての工夫【指導方法の工夫】

本時において、新宿御苑の見学の情報を整理、分析をする際に思考ツールの座標軸とKJ法を用いる。その際に情報共有アプリを活用して行うようにする。情報共有アプリを活用し、共有した考えを紐付けたり、色分けしたりすることで、考えを深めることができると思う。従来の付箋を用いたKJ法に比べて、間違いの訂正が容易であることや、付箋の文字が小さくなり、読みづらくなってしまうといった点が解消され、児童は話合いに集中することができるようになると思った。

6 指導計画（55時間）

	探究的な学習の過程	指導のポイント
プロローグ ①	総合オリエンテーション	- 思考ツールの活用方法を理解させる。 - 総合的な学習の時間の学び方を指導する。
第一次 新宿御苑の魅力とは (15)	【課題の設定】新宿御苑のホームページや実際に見学したことを基に、「新宿御苑の魅力」とは何か考えを出し合い、新宿御苑について関心をもつ。	4年生までの新宿御苑との関わりを想起させる。 - 思考ツール「Xチャート」活用し、課題を分類する。
	【情報の収集】改めて調査に出掛け、新宿御苑の魅力について、利用客、従業員など様々な視点から魅力について考え、調べる。	様々な視点から新宿御苑の魅力について考えることで、社会と自分たちとのつながりについて意識させる。
	【整理・分析】集めた情報から、新宿御苑の魅力について考える。	- 思考ツール「座標軸」の活用。 - KJ法の活用。
	【まとめ・表現】新宿御苑の魅力をまとめて、クラスで発表し合う。	新宿御苑には多くの魅力があることに気づき、その魅力が十分伝わっているかどうかを考え、次の課題につなげる。
第二次 魅力の発信方法とは (29)	【課題の設定】一次で考えた魅力を「だれに」「どのように」発信したいかを話し合う。	表現の方法を複数提示する。
	【情報の収集】自分たちの考えた発信方法に合った情報を集める。	必要に応じて、御苑に見学に行ったり、インタビューを行ったりする。
	【整理・分析】御苑の魅力の発信を作成する。	タブレット端末の活用。
	【まとめ・表現】御苑の魅力の発信方法について、まとめたことを御苑の方に聞いてもらう。	ゲストティーチャーの話から、次の課題につなげられるようにする。
第三次 新宿御苑の魅力発信 (10)	【課題の設定】ゲストティーチャーの話を振り返ったり、他グループの発信を見て、自分たちの発信の修正を行う。	伝えたい相手を意識した発信となるようにする。
	【情報の収集】発信を修正する情報を集める。	発信内容に合った必要な情報を収集させるようにする。
	【整理・分析】魅力がより伝わる発信方法となるように収集した情報を整理、分析する。	発信内容、方法がよりよいものとなるようにする。
	【まとめ・表現】考えた魅力の発信方法についてまとめ、魅力の発信を実際に行う。	実際に発信を行い、自分たちの発信方法が適切であったか、振り返る。

7 本時（12/55）課題の設定

（1）ねらい

「新宿御苑の魅力は何か」について、集めた情報を整理、分析し、考えをもつ。

（2）学習指導過程

	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	・ 留意点 ○評価
導入	○めあての確認をする 「前は新宿御苑にグループごとに見学に行き情報を集めましたね。今日は何をしますか。」	・ 子供たちに投げ掛け、子供たちの言葉で本時のめあてをつくるようにする。
	見学で集めた情報の整理、分析をしよう。	
展開	○見学で分かったことや気付いたことを情報共有アプリ上に入力する。 ・ 外国の利用者が多い。 ・ 歴史のある建造物がある。 ・ 自然が豊か。 ○グループで「新宿御苑の魅力とは何か」話し合う。 ・ 日本式の庭園や景色がいいところ。 ・ 海外の人や障害のある方々が楽しむことができるようになってきているところ。 ・ 温室やバラ園があり、自然が豊かなところ。 ○グループごとに見つけた魅力を発表する。	・ 情報共有アプリ上に座標軸を出し、整理、分析できるようにする。 ・ 座標軸の項目はグループごとに設定する。 ・ 情報共有アプリ上の入力した情報を整理しながらテーマに沿って話し合えるようにする。 ○「新宿御苑の魅力とは何か」について集めた情報から考えている。 ・ グループで作成した情報共有アプリの画面を電子黒板で表示しながら、どのような魅力を見つけたか、分析したことなどを発表する。
終末	○本時の振り返りをする。 「今日の学習で分かったことについてまとめましょう。また、自分たちの学び方についても振り返りましょう。」 ○次時の見通しをもつ。 「グループで新宿御苑の魅力とは何かが見えてきましたね。次の時間は自分たちの考えた魅力をまとめて、クラスの友達に発表しましょう。」	・ 学習を通して「分かったこと・考えたこと」と「自分たちの学び方」の2点について振り返らせるようにする。